

令和４年度幼稚園学校評価（出雲市立東幼稚園）

分 野	評価項目	評価の着眼点	自 己 評 価		学校関係者評価	評価結果を踏まえた今後の取り組み
			達成及び取組状況	評価		
教育課程・指導	①学年・学級経営	教職員は、教育目標の達成を目指した学級経営を行っているか。	「子供は、幼稚園に行くことを楽しみにしている」「幼稚園では、園の特色や実態を生かした教育活動が行われている」の項目で、全保護者からプラス評価をいただいた。年長・年中・年少それぞれの発達に応じた取組に対し、保護者の理解が得られていると考える。幼稚園の近くにあるゴビウスやグリーンパーク、湖遊館等の教育施設を生かした活動や、米作りや和太鼓等、地域の方々のボランティアに支えられた取組が東幼稚園ならではの特色である。今後も地域の「ひと・もの・こと」を生かした教育活動を行う。	4	【①学年・学級経営】 ・ゴビウスや湖遊館など近隣の教育施設を活用しながら、十分な教育活動がなされていると思う。 ・森の幼稚園のように、自然環境に恵まれたこの地で、さらなる活発な野外活動がなされることを望む。 ・稲作や和太鼓等は、他園にはあまりない東幼稚園ならではの特色だと思う。 ・地域の教材や人材を活用して「東幼稚園ならではの」な活動がたくさん取り入れていてよかった。 ・田植え、芋苗植えなど、地域の人と一緒にになって取り組めたことや、稲刈り、芋掘りなどの作業の過程を見ることはよいと思う。 ・「はでば遊び」は地域の農業遺産だ。子供たちに伝えたいものの一つである。 【②幼児理解】 ・先生方は、子供たちを大切に考えてくださっている。日々の「れんらくのーと」からも、園での様子がよく伝わってくる。 ・こどもの様子からも、意欲や自信を引き出す活動や声掛けをしていただいていることがよく分かる。 【③特別支援教育】 ・担任とそれ以外の職員とで認識の差があるかもしれない。情報共有を徹底するとよい。 ・朝陽小学校の特別支援教育コーディネーターは、支援体制の整備や情報共有の場づくりなどに長けており、研修等必要ならば本人への声掛けもできる。 【⑥保幼小連携】 ・朝陽小学校と東幼稚園との交流・連携が進んできているように思う。職員同士の連携も是非行いたい。 ・コロナ禍で交流の回数が少なくなったと思うが、今後は増やせるとよい。園児だけでなく児童・生徒にも多大な刺激があると思う。 【その他】 ・「お話郵便屋さんの来園」人からお話を聞く、自分から本に楽しんでいてよいと思う。 ・気象の悪化やコロナ流行などで、計画されたことがスムーズにいかなかったこともあると思うが、みんな無事だったことがよかった。 ・今後、園児数の減少が考えられるが、東幼稚園の特色を上手に伝え、少しでも入園児が増えるとうい。みんなで頑張っていきましょう。	○今後も東幼稚園の強みである「自然環境」「教育施設」「地域の方々の力」等が計画的に活用できるよう、年間の行事予定や人材バンクを整備していく。そのためにも、地域との関係を密にするよう、園も積極的に地域に情報発信していく。
	②幼児理解	教職員は、一人一人の幼児の発達の姿から課題を捉えて保育を行っているか。	「③特別支援教育」とも関連し、一人一人の幼児理解に努めてきた。その子の得意なことや興味があることで意欲の向上を図るとともに、苦手意識や積極的になることができない事柄をについて、励ましや必要な支援を行ってきた。今後も幼児一人一人の特性を把握し、よりい支援に向けて取り組んでいきたい。	3	○担任だけでなく、補助教諭、管理職、養護教諭等が、それぞれの立場で子どもを見守り、情報を共有する。 ○個人面談で保護者と教師が幼児の発達や課題について共通理解し、同じ意識で保育や子育てに向かえるようにする。	
	③特別支援教育	特別な支援を必要とする幼児の実態や課題を明確にし、計画的・組織的に指導を行っているか。	個別に支援を要する幼児に対して配置された特別支援補助教諭と担任が連携を図るとともに、役割分担しながら有効な指導が行えるよう努力してきた。また、巡回相談、年中児育ちの応援シート、通級指導教室、小学校等との連携など、支援に活用できる機会や方策を取りながら支援の充実を図った。該当幼児に関する情報共有や全職員による支援方法の周知など、十分でない面も見られる。	2	○該当幼児に関する情報共有やそれに基づいた支援方法の共通理解を図る場をつくる。職員会議の中に位置付ける。 ○保護者との連絡をこまめに行い、保護者の願いや困り感を理解し、指導に反映させていく。	
	④人権・同和教育	教職員は、自らの人権感覚を磨き、幼児に人権意識の芽生えを培うように配慮しているか。	日ごろから、人権感覚を磨き人権意識を高めるよう心がけている。他県で起きた保育士による幼児の虐待・暴行事件を受け、適切な保育を心がけるよう、改めて職員の意思統一を図った。幼児への指導として、今後「心がぽかぽか集会」を行い、友達誰とでも仲よくすることの大切さや、名前を呼び捨てにしないことの大事さについて伝えていく予定である。	3	○子どもも大人も大事な一人一人であるという意識を常にもつ。年齢差や性差にとらわれることなく、それぞれの人格を大事にし認めていく。 ○研修会等に計画的に参加したり、参加者による伝達講習等で自己研鑽に励む。	
	⑤行事	教職員は、行事を幼児の発達を促す機会と捉え、工夫、改善しているか。	行事のねらいを明らかにし、年齢に応じた目指す子どもの姿をもちながら指導にあたってきた。その際、ふだんの子どもの活動と行事とがつながるよう意識した。例えば、年少組では“忍者”が一年間のテーマとなっており、運動会や生活発表会でも関連付けた内容を行った。年長・年中組では、子ども達の一番の関心事である“自然・生物”を行事の中に盛り込んだ。また、地域の教育施設を計画的に活用し、東幼稚園ならではの特色をもたせた。	4	○日々の保育と行事とがリンクするよう、意識して取り組んでいく。子ども達の興味・関心が続き、さらに高まるよう、年間の見通しをもつようにしていく。	
	⑥保幼小連携	近隣の小学校等との連携を密にし、なめらかな接続に努めているか。	朝陽小学校の体育会練習や学習発表会練習の見学に行くことができた。また、年長児の小学校見学を行い、就学に向けて気持ちを高めさせた。新型コロナウイルス感染症の心配があり、回数は限られたが、子ども達にとっては貴重な機会となった。また、朝陽小学校児童も自然観察に来園し、園児との触れ合いもあった。向陽中学校からは、3年生が交流に訪れ園児と親しく活動することができた。子ども達は、大喜びだった。	3	○幼稚園、朝陽小学校相互に行き来できるよう、年度当初に大まかな予定、計画を立てておく。 ○よりスムーズな交流となるよう、年度の早い段階で職員同士の顔合わせ会を行う。	
家庭・地域との連携	⑦家庭・地域との連携	幼稚園と保護者、幼稚園と地域（未就園児等）との協力関係はできているか。	バス通園の園児が多いため、保護者と毎日顔を合わせて話すことはできないが、伝えなければいけないことは電話や連絡帳を使ってこまめに連絡をするようにしている。また、地域との連携においては、積極的に地域の行事に参加したり、地域に協力をお願いしたりして連携を図るようにしている。また、地域の未就園児教室にも園から職員が参加し、遊びを行った。	3	・写真付きのクラスだよりをこまめに出していただき、毎日の生活の様子がよく分かる。 ・地域行事に参加することはよいことだ。参加経験のない行事にも参加してみてもよいと思う。 ・生活発表会に保護者も出席され、教育活動が直接確認できている。	○直接話ができない保護者へも幼児の園での様子が伝わるよう、クラスだよりや連絡帳を活用する。 ○園の様子を地域に積極的に発信する。また、地域行事へも可能な限り参加し、園児が頑張る様子を直接見てもらう。
研修	⑧研究・研修	教職員一人一人が、園内外の研究・研修の機会を自己研鑽の場として受け止め、進んで研究・研修に取り組んでいるか。	出雲市幼稚園研究会(市幼研)で行う教育研究大会やブロック交流保育研究会に参加し、自己研鑽に努めた。また、同じく市幼研の講演会や領域別研修会で課題意識をもちながら研修に努めた。	3	・日々の保育で忙し中、研究会や研修会に参加され、自己研鑽されていると思う。	○各自が学んだことを職員会議で伝達したり、ふだんの保育後、話題にあげたりして、保育力の向上につなげていく。
組織運営	⑨園務	教職員は、他教職員と協働し、計画的に園務を遂行しているか。	職員は、担当の園務について早めの起案を行いながら、計画的に取り組むよう努力している。しかしながら、昨年度より人員が減ったため、職員一人が担当する業務が多くなり、思うように対応できないときもある。互いに声をかけ合って、協力して取り組むよう心がけてきた。	3	・教員数が減る中で「幼稚園として大事なものは○○だ！」といった絞り込みをすること、そして、職員間で共有し取り組んでいくことが肝要である。東幼稚園のよさとすばらしさを、もっと発信できるとよい。	○内容に応じ軽重を付けながら取り組んでいく。「昨年度もやっていたから、本年度もやる」ではなく、子ども達にとって必要かどうかを見極め、職員の過度な負担にならないよう“スクラップ・アンド・ビルド”も大事にしていく。
安全管理・保健管理	⑩危機管理	園の危機管理及び幼児の安全や衛生の管理体制を全教職員が理解し、適切な対応に努めているか。	新型コロナウイルス感染症対策は、基本的な行動として、幼児への手洗いうがい、マスクの着用の指導と職員による換気や消毒を行った。避難訓練、不審者対応訓練・防犯教室を計画的に行った。園児の避難行動や危機意識は、徐々に身に付いてきている。保護者への引き渡し訓練を行った。おおむねスムーズに実施することができた。	3	・コロナ禍の中、十分な感染対策ができている。 ・コロナが2類から5類になっても、感染症対策をしてほしい。 ・定期的に避難訓練が実施され、危機管理対応がなされている。 ・避難訓練は、間隔があくと忘れがちになるので、職員だけで行う機会があってもよい。	○本年5月から新型コロナ感染対策が大きく変わっていく。国や県、出雲市の情報を基に、ウィズコロナを前提とした感染対策を行う。 ○実際の災害時を想定して、実施方法を見直しながら、避難訓練や引き渡し訓練をしていく。
教育環境整備	⑪園地・園舎・遊具等の施設・整備	園地・園舎・遊具等の施設・設備を定期的に点検し、必要な改善・管理を行っているか。	毎月、職員で園舎内外、遊具の安全点検を行っている。修理が必要な個所は、早急に行うようにしている。園庭の草刈り、芝刈りを定期的に行ったり、樹木剪定もできるだけ職員が行うようにした。	4	・毎月点検等、よく行われている。 ・園庭整備や花木剪定もやられ、管理がよくされている。 ・園庭整備は、職員と保護者が協力している。さらに保護者の協力をお願いしたい。 ・朝陽小学校の校務員も協力していく。	○定期的な安全点検を行い速やかに対応する。 ○園庭は、特に夏場から秋にかけて雑草や芝が生える。人的には保護者の協力も仰ぎ、金銭的には出雲市とも相談しながら、園児にとって安全で快適な環境づくりに努めていく。